

会議録

会 議 名	令和4年度 第2回 目黒区廃棄物減量等推進審議会事業系専門部会
日 時	令和4年10月14日(月) 午前10時15分～午前11時20分
会 場	目黒区総合庁舎1階E会議室
出 席 委 員 (敬称略)	安井、平尾、原、森銅、小林(計5名)
区 側 職 員	橋本環境清掃部長、神清掃リサイクル課長、金元環境保全課長、細野清掃事務所長
傍 聴 者	なし
配 付 資 料	<p>専門部会委員名簿</p> <p>資料1 2100年を視野に入れた快適で誇りのもてる循環型のまち ～めぐろへの提言～答申 中間のまとめ(案)</p> <p>資料2 目黒区資源とごみに関するアンケート(区民・区内事業所)について</p> <p>資料3 “めぐろ買い物ルール”の追加について</p>
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>8名中、出席者は5名であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。</p> <p>2 議 事</p> <p>答申中間まとめ(案)について</p> <p>○区 (資料1～3の説明)</p> <p>(事業系ごみの適正排出について)</p> <p>○副部長 ごみ処理券の貼付率について、組成調査とアンケート調査で貼付率に差が出ている原因は何か。</p> <p>○区 組成調査はごみを直接調査している。アンケートは無作為抽出し区内事業所へ郵送している。大きな事業所は貼付しているが、個人事業所などは貼付していないことが多い。その差が現れていると考える。</p> <p>○委員 家庭ごみの組成分析調査を見ると資源になる古紙が15.2%と多く、一番改善できる点ではないか。ごみの排出で、新聞と段ボールは見るが、雑がみは減ってきているように感じる。</p> <p>○委員 町会の中には、事業系のごみ処理券を貼付すると、集団回収の業者に渡せないで、ごみ処理券を貼らずに出して欲しいと言っているところがあるようだ。</p> <p>○区 事業者の責任として業者に出すべきである。町会の収入になるのでごみ処理券を貼らないように依頼するのは問題である。</p> <p>○委員 事業系ごみは、量が多めに少ないため、家庭ごみとして出しているところがあるのではないか。また、フリーランスが増えているが、事業系ごみで出しているとは思えない。</p> <p>○区 収集員は回収時に、明らかに事業系と分かるごみについては収集せずに注意喚起シールを貼っている。また、事業者に対して定期的に巡回して排出指導を行っている。</p>

○委員	注意喚起のシールを貼っているとのことだが、具体的な内容について伺いたい。
○区	燃やすごみと燃やさないごみの収集日を間違えている、分別していない、事業系ごみに有料シールを貼っていない、などの場合に注意喚起のシールを貼り取り残している。地域を決めて巡回し、排出指導をすることもある。
○委員	ごみを持っていかないと、区に苦情が来るのではないか。
○委員	集積所を移動した際に、取り残されたことがあった。
○区	取り残しが続く場合は、清掃事務所に連絡していただきたい。
○委員	不動産屋では新規入居者にごみ出しルールの説明を行っているとのことである。家庭系だけでなく、フリーランス等独立する人達に対し事業系ごみが有料である等の説明パンフレットを渡してはどうか。
○区	周知方法については検討する。
	(ごみ量の傾向について)
○委員	ごみ量の推移について、ごみの量がコロナで増えているが、家庭系と事業系に分けるとどのような傾向になっているのか。
○区	区が収集しているごみについては家庭系と事業系が混在しており、割合は把握していない。
○委員	コロナの影響であれば、営業できない飲食店があるのでその分減っているはずである。
○区	特別区全体の傾向だが、コロナの影響で繁華街ではごみが減り、住宅街ではごみが増えている。
○委員	目黒区は住宅地の割合が多いということか。
○区	そのとおりと考えている。
	(経済活動とリユース・リサイクルについて)
○委員	布等のリサイクルの充実が必要と考える。子ども服の回収を行っている区もある。良い方法はないか。以前は町会で古着を回収していたが、コロナで中止になっている。
○区	以前は町会の集団回収で古布の回収を行っていたが、現在古布が全く売れないため、回収業者が取扱をやめている。その影響で町会が回収できない状況である。市況が好転して、回収業者が取扱を始めれば町会も再開するのではないか。
○区	田道ふれあい館の地下 1 階にあるエコプラザという施設にはリサイクルショップがあり、古着の回収や子ども服の交換会を行っている。また、家具などの不用品について情報交換できるコーナーがあり、欲しい人とあげたい人とのマッチングも行っている。エコプラザを知らない区民の方が多いので、もっと知名度を上げたいというのが課題である。
○部会長	どうすれば知名度を上げられるか。
○区	エコプラザの運営団体であるエコライフめぐろ推進協会(以下「エコライフ」という。)が総合庁舎別館 6 階にあり、フードドライブ <sup>※1</sup> の窓口を常設している。集めた食品は福祉施設等に渡している。エコプラザで例年実

	<p>施している「エコまつり」でも実施していたが、エコプラザのある東部地区以外の地区におけるイベントでもフードドライブを展開し、エコライフの取組をアピールしている。そのほか、エコプラザの知名度を上げるため、エコライフのHPでも工夫しながら周知を図っている。</p>
○委員	<p>フードドライブを行う施設では、食品を一度に大量に持ってこられても困るという話を聞く。</p>
○区	<p>エコライフで行っているフードドライブの目的は食品ロス削減であり、福祉的な観点とは少し異なる。量をたくさん集めて多くの人に届けることを目的とする事業ではなく、食品ロスをなるべく出さないようにすることを目的とする事業であると考えている。</p>
○副部長	<p>古布の集団回収は、特定の集団回収業者に依頼しているのか。</p>
○区	<p>町会ごとに集団回収業者は自由に選択できる。全ての集団回収業者が古布を扱っているわけではなく、一部の集団回収業者が扱っている。</p>
○副部長	<p>コロナ禍でも古布の集団回収を継続している地区もある。区から業者に古布回収の再開を勧めることはできないか。</p>
○区	<p>段ボール等は価格が下がった場合、集団回収活動支援として集団回収業者に下がった分の補填を行い集団回収業者に引き取ってもらう仕組みがあるが、古布は行っていない。</p>
○区	<p>古布は主な行先が海外であるが、海外への輸出が滞っているため、回収しても引き取り手がない状況である。地域の中で譲り合い等を行っていただくのが理想である。</p>
○委員	<p>地球環境問題を考えると、リユースやリサイクルは良いことだと思うが、お金のある人は古いものは使用しないのではないかな。</p> <p>リユースやリサイクルが進むと廃業する会社が増えるという面がある。レジ袋や子ども服の会社等が廃業することになるのではないかな。</p>
○部長	<p>リユースやリサイクルが進むと日本経済が停滞する。経済活動と環境というのはうまく両立しないものである。バランスが重要と考える。</p>
○委員	<p>グローバル化している現在では難しい。</p>
○副部長	<p>衣服については、国際的に作り過ぎが問題となっており、フランスでは販売者は売り切れない衣服を廃棄してはいけないという法律ができた。少し値段が高くなっても、必要な量を作っていくことが重要である。販売する量が少なくなっても成り立つビジネスにしていくことが必要である。</p>
○委員	<p>現在は洋服が安くなったと思う。逆に振袖やおひな様を代々引き継いでいるが、それはお金を使っていないことになる。</p>
○副部長	<p>経済活動と資源がうまく循環するような仕組みの構築が必要だが、日本は値上げができないので、難しい課題である。</p>
	<p>※<sup>1</sup>フードドライブ：家庭で余っている食品を集め、福祉団体や施設、フードバンクなどに提供する活動</p> <p>(プラスチック等のリサイクルについて)</p>
○委員	<p>プラスチック容器の一番良い処理方法は何か。</p>

- 区 ケミカルリサイクル<sup>※2</sup>、マテリアルリサイクル<sup>※3</sup>の2つの方法があり、技術的にはどちらも成り立っている。用途としてはケミカルリサイクルのほうが広がりはあると考えるが、一回きりのリサイクルとなる。環境省はマテリアルリサイクルを進めているが、現在は再生できるものがパレット、建築資材等と限られている。また、経費がかかるので、マテリアルリサイクルとケミカルリサイクルのどちらがよいか一概には言えない。○委員 リサイクルの過程で二酸化炭素は排出されないのか。
- 区 輸送や再商品化の過程で二酸化炭素は排出される。国の検証では、ライフサイクルで比較した場合、新たに生成するよりは、リサイクルしたほうが二酸化炭素の削減になると言われている。
- 委員 家庭ではさっと洗えるものは資源で、洗剤や洗えないものは燃やすごみにしている。
- 委員 びん・缶・ペットボトルリサイクルの現状はどうなっているか。
- 区 びん・缶・ペットボトルの回収量は5年程度横ばいである。
- 区 組成分析調査結果によると概ね適正に排出されている。
- 委員 居住しているマンションではスチール缶を回収していない。
- 区 区ではアルミ缶とスチール缶を一緒に回収し、回収後に選別している。
- 部会長 補足だが、鉄とアルミは磁石で簡単に選別できる。
- 副部会長 びん・缶・ペットボトルはリサイクルの仕組はしっかりできている。組成分析調査結果にあるように、紙やプラスチックなど本来資源になるものをきちんと分別していく必要がある。
- 委員 ごみの処理は非常にお金がかかって、大変であることをもっとアピールしていけば、ごみに対する意識が変わるのではないか。
- ※<sup>2</sup>ケミカルリサイクル：廃プラスチックを化学的に分解してプラスチック製品の原料として再利用すること。
- ※<sup>3</sup>マテリアルリサイクル：廃プラスチックをフレークやペレットにしたのち、再びプラスチック製品の原料として再利用すること。

3 閉 会

以 上